

会 議 録 (要点筆記)

- 1 会議名 令和2年度 第3回瑞穂町地域農政推進協議会
- 2 日 時 令和2年9月30日(水) 午後3時から午後4時40分
- 3 場 所 瑞穂町役場 1階ホール
- 4 出席者 上野 勝、臼井 順央、榎本 勝昭、細渕 浩昌、中垣 浩光、桐原 伸彦、久保田 聡、中野 真弓、久保田 晴利、近藤 剛、井垣 貴洋
- 5 欠席者 青木 一幸、鳥海 雅司、新藤 正巳、角田 由理子
- 6 議 題 (1) 農業振興のための町民へのアンケート調査について
(2) 瑞穂町農家地区別懇談会の開催結果について
(3) 瑞穂町農業振興計画の基本的方向(案)
(4) その他
- 7 配布資料 資料1 農業振興のための町民へのアンケート調査について(案)
資料2 瑞穂町農家地区別懇談会の開催結果について
資料3 瑞穂町農業振興計画の構成(案)
資料4 瑞穂町農業振興計画の基本的方向(案)

8 会議内容

- (1) 農業振興のための町民へのアンケート調査結果について
(事務局説明)

農業振興のための町民へのアンケート調査結果について説明した。

対象者数1,000人、有効回答者数412票、有効回収率41.2%。

以下、調査結果について、抜粋して説明した。

問1 近隣に農地の有無、問2 農地の保全、問3 農業・農地のイメージ、問5 学校教育での農業体験、問10 「ふれっしゅはうす」の利用、問16 農業問題への対応について、問17 農業を育てていくために協力できること、自由意見

(質疑等・意見交換)

○上野会長

自由意見については、どのような傾向であったか。ブランド化の意見が多かったとか。

(事務局)

明らかな傾向はみられなかったが、参考になる意見を幅広くいただいたので、そのまま提示させていただいた。

○細渕委員

若い世代の意見が出ていない。回答者の多くは、40代以上である。20代、30代をターゲットにしていく必要がある。60代、70代、80代で、守って

いけるか。

(事務局)

自由意見は40代以下でまとめているので、そのなかで、20代、30代の意見は、お示しできるよう整理したい。

○久保田（晴）委員

アンケートからいえることは。

(事務局)

農業の経験のない人が多いものの、協力できることは協力したいと多くの方が回答している。気軽に農業に触れ合えるように、直売所のPRを含めて、町として進めていきたい。

○臼井委員

自由意見で、直売所、ふれっしゅはうすをもう少し見直したほうがよいという意見がみられる。町外の道の駅をみても、駐車場が大きく店内も広い。中で飲食もできる。そのような直売所にしていったらと思う。

○上野会長

(町民へのアンケートの中で) ふれっしゅはうすの質問は、初めて行った。

(事務局)

前回の協議会での意見を踏まえて、設問を設けた。

○久保田（勉）委員

アンケートの取り方、分析の仕方になるが、回答数が2つだけとか、いくつでもとか、という設問の仕方、結果も変わってくる。たとえば問18では1つだけとすればこういう結果だと思うが、その辺を配慮する必要があると思う。また、自由意見のところは、年齢順に並べると見やすくなるかもしれない。

○上野会長

アンケート自体、5年前と比較するというので設計するのではなく、次回は、現状からみてどうかということで設計するようにしたほうがよい。

○桐原委員

農産物を購入することで協力していくという回答が多いので、直売所を盛り上げていく必要があると思う。

(事務局)

若い世代で知らない方が多いので、その辺の対策も考えていく必要がある。

(2) 瑞穂町農家地区別懇談会の開催結果について

(事務局説明)

農家から現状の課題、今後の見通しなど、率直なご意見を伺うため4地区で開催した。

意見としては、認定農業者や新規就農者への町独自の支援が必要、後継者への支援も必要、直売所の運営方法の充実等が必要、農業振興地域を見直すなど。

(質疑等・意見交換)

○上野会長

参加者が少なく、特に、農業対策委員は皆無に等しかった。

(事務局)

農業対策委員は、農作物生産状況調査の説明会で案内をしたが、出席はほとんどなかった。

○桐原委員

どのくらいの出席者を想定していたか。

(事務局)

農家数から、長岡地区、元狭山地区はもう少し出席者があってもよかったという思いもある。石畑・殿ヶ谷地区は比較的多かった。

○上野会長

案内文で、コロナの影響はどうかとあったが、今後10年の瑞穂町の農業をどうするか、とした方がよかった。キャッチコピーで集まる、参加しようと思えるようなものがほしかった。

(3) 瑞穂町農業振興計画の基本的方向 (案)

(事務局説明)

資料3で、農業振興計画の構成案を説明。

資料4で、基本的方向の案を説明。基本理念と将来像、基本的方向に該当する。

基本理念を「みらいへつなぐ みんなで育てる みずほの農業」としている。

三つの柱、「生産する」、「未来へつなげる」、「地域と共存する」を掲げ、施策を位置づけていく。

「生産する」では農業振興地域整備計画の見直し、新たな農業用施設の整備検討、直売所機能の充実など、「未来へつなげる」では先輩農家が技術指導を行う体制づくりなど、「地域と共存する」では交流人口増加に向けた支援など。

(質疑等・意見交換)

○久保田(晴)委員

瑞穂町の農家は、大きい農家から小さい、家庭菜園の農家まである。相続で分散していき、農家の足並みもそろわない。そのような中で、意欲のある農家へということかもしれないが、小さい農家もある。瑞穂町の農業をどうしていくか、難しいところだと思う。

(事務局)

Uターン農業者という言い方をしているが、定年を迎えて農業を始めようという方もいると思うので、そういう方が就農できるような支援を検討していきたい。

○上野会長

生産緑地制度を取り入れることを、この計画に位置付けていく必要がある。

(事務局)

生産緑地は、都市計画のほうでも検討している。足並みはそろえて、施策としての位置づけをしていきたい。

○細淵委員

懇談会で配ったような（農業振興地域の）地図を、委員に配ってはいかがか。少し見づらいので大きい地図を。

(事務局)

懇談会では地区を紹介する図として作成していたので、全体図として配布を検討したい。

○上野会長

町の現状で、農業センサスは元号ではなく西暦で表記してほしい。

また、年度別の農家数が大事で、農業基本構想にある1995年のセンサス農業センサスでは農家戸数が601戸、2015年の販売農家数は3分の1以下になっている。農地面積は、市街化区域の農地は減少しているが、農振地域の農地はほぼ減少していない。そういう認識で施策を立案していく必要がある。

(事務局)

次回、計画案を示す中では掲載していきたい。

○井垣委員

立川の農家が武蔵地区で結構な農地を耕作しているので、この計画の担い手のところで（他市の農家について）触れるか。

○上野会長

農業委員会で遊休農地の指導をしているが、11町歩あった。そのうち4割が立川や武蔵村山の不在地主である。

○近藤委員

担い手の定義は。

(事務局)

ここでいう担い手の定義は、新規就農者、後継者を含めて農業をやっている方全員になる。認定農業者のような方もいれば、自家消費程度でやっている方もいる。均等に支援をしていくというのは難しいので経営状況に合わせて支援をしていくという考え方になる。

○上野会長

（農業次世代人材投資費補助金を含めて）親元就農はこれまで制限されていて、野菜をやっている他の分野に入るのならいいということになってきた。親元就農を含めて担い手支援をしていく必要があると思う。

(事務局)

担い手の定義について、わかりやすく整理したい。

○近藤委員

前回の協議会で、農家の層を整理していた。その層に合わせた支援を、メニューを用意していくことになるのか。

(事務局)

支援してほしいことは層によって違うと思う。

○近藤委員

支援が中途半端にならないように、がんばる人に重点的に支援をしてほしい。

(事務局)

予算の限りもある中ではあるが、そのような考え方も必要だと思う。また、売り上げが無くても、不耕作地を無くすための支援が必要な農家もあると思う。なるべく全体を見ていきたいと思う。

○近藤委員

瑞穂町は酪農で頑張っている方も多し。強い部分を伸ばしていくことも必要だと思う。

(事務局)

おっしゃるとおりだと思う。

○上野会長

農振地域の見直しが大きな課題だと思うが、融資を受けてやっている人もいる。テレビで1000万円を稼ぐ人たちという番組があって、アスパラで1000万円という農家を紹介していた。市や県の支援を受けて。東京都でも新規就農者への補助制度があるが、栽培をしていけば何らかの収入があがる道筋を作っていたらと思う。都心に住宅を建てるのは大変だが、瑞穂では何町歩も取得できる。新規就農者が農地を確保することが難しい状況にある。暮らしを安定させないと先が見えない。支援をしていくという意気込みを、計画に位置付けてほしい。

○久保田（勉）委員

新規就農者をみていると、農業だけで、特に最初のうちは、食っていくことが大変だという意見がある。次世代が、稼げるようになるまで支援をしていくことが求められている。施設を建てるのが難しいという話もあるので、最低限のことはできるように支援が必要だと思う。町と一緒に進めていかないとできないことだと思う。

○久保田（晴）委員

都心の学校給食へという話もあったが、今は瑞穂だけで手いっぱいなのか。お茶も学校給食で使ってほしいと言っていたが。

○近藤委員

学校給食は、JAの中央会が取りまとめている。瑞穂の場合は、外に向けていくということも必要だと思う。

○久保田（晴）委員

そうすれば大きい農家も機械を入れて効率よく生産していけるので、そういう農家をもっと出てくればと思う。

○上野会長

立川には広域で出荷できる直売所がある。瑞穂からも出荷できる。しかし、JAにしたまでは、それぞれの自治体内でしか出荷できない。瑞穂は出荷量があるので、出荷できるようにできないか。広域連携ができていない。

○臼井委員

所得増大が農家の問題点であり、新たな農業施設の整備、直売所の整備で、町で考えていることは。

(事務局)

農業振興地域の中の農業振興ということで、新規就農の方の施設拡大や6次産業化など、具体的な考えは定まっていない。今後10年で何らかの対応が必要だろう、ということで位置づけている。

○臼井委員

直売所の見直しは、起爆剤になると思う。拡張するとか、移転をするとか。

(事務局)

新たな施設とか、直売所など、何かやらないと農業が衰退していってしまうのではないか、ということで強い思いがある。皆様のご意見をいただきながら、検討していきたい。皆さんがやっていきたいことに、支援をしていきたい。

直売所は買って終わりではなく、たとえば清水牧場さんではやぎなんかいたらいいねとか、そこでうどんを打ってたべられたらいいねとか、町が施設をつくってもやり手がないと、衰退していってしまう。

○上野会長

八王子の道の駅は、地元のコーナーと他の物とがある。地元の物を圧迫しない程度にしている。日野の直売所は、直売所は農協が管理しており、フードコートは業者に委託している。分けて運営している。場所貸しみたいな形になっている。研究会を立ち上げて、検討していく必要がある。直売所のコンサルタントを入れて、検討していいかがか。

○久保田(晴)委員

直売所は、にしたま全体でつくってはどうか。町でつくって農協に貸す。

国道沿いの道の駅は都内にないらしい。商工会で案をつくったこともあるが、16号沿いあたりではいかがか。

(4) その他

(事務局説明)

次回の協議会は、10月27日(火)午後3時から、こちらの会場で開催する。

以上